



Zone A 学校

「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ ―校種を超えて教育を協働する―」

いま、教育をめぐる現状は目まぐるしく変貌しています。新しい学習指導要領では、急速なグローバル化と情報化、そして超高齢化する2030年の社会を見据えた教育のあり方が議論され、アクティブラーニングを始めとした新たな方法の必要性が叫ばれています。たしかに、これからの社会で生きる子どもたちに対して、私たちのこれまでの価値観や経験をそのまま教えていくことができないのは明らかです。しかし正直なところ、これからの学校教育において私たちは何をどうすれば良いのか、雲をつかむような手応えの中で焦りと不安ばかりが募るのも事実ではないでしょうか。

私たちの誰も経験したことがない教育を求められる今の学校現場では、教師一人の力で全てに対応することに限界があります。であれば、他者と一緒に考えていくしかありません。これまでZone Aが「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」をテーマとしてきた理由は、まさにここに 있습니다。そして、継続したセッションの積み重ねを経て、教師同士が語り合い、聴き合い、ビジョンを共有して実践する、協働の重要性が浮かび上がってきました。不透明な社会を生きる子どもたちを支える教師にとって、言わば「協働する教育」こそが、その根幹をなすあり方ではないかということが、おぼろげに見えてきたわけです。

一方で、これまでのセッションでは、同じ学校内の教師コミュニティに着目するあまり、協働を横のつながりとして限られた時間軸の中でのみ捉えがちでした。そのため、校種を超えた、より広い時間軸の中で協働を捉える視点はこれまで欠けていたように思います。しかしながら、2030年の社会に生きる子どもたちへの学びを考えていく上では、子どもたちの発達をより広い枠組みから考え、言わば縦のつながりから教師コミュニティの協働を検討していくことは必要不可欠です。将来を見据えた時、私たち教師は今どのような市民を育てているのか、そうした子どもたちの長期的なビジョンを教師コミュニティで共有することが求められるからです。

そこで、今回のラウンドテーブルでは「校種を超えて教育を協働する」というサブテーマを掲げ、これからの日本社会を生きる子どもたちを育てていく上で、校種間の協働によって何ができるのかを話し合っていきたいと考えています。昨今の教育改革においては、校種間のつながりは大学進学を目的としたものとして、また、協働というキーワードは生徒同士学びを意味するものとして、それぞれ捉えられてきたように思います。しかし、校種の違いを超えて教育を考えていくことは、狭義の連携や協働を超えた実践的意義を、2030年を見据えた教育のあり方を、そして焦りと不安の中にある私たち教師への一つの指針を、教師コミュニティにもたらしてくれるのではないかと期待を私たちは抱いています。ラウンドテーブルを通して、「校種を超えた教育を協働する」この可能性について皆さんと深めていくことができると考えています。

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

福井県内外の小学校・中学校・高校・特別支援学校から、「教育を協働する」実践についてポスター報告が行われます。ポスター報告にもとづき、各校及び参加者で互いの実践を交流します。

発表予定（交渉中）：高志高・西先生、勝山市内小中（英語連携に関する実践）、豊小・上島先生、麻生津小（保幼小連携について）、幼児教育センター・勸先生、奈良女中等・塩川先生／佐藤先生、富士市立中・眺野先生など

Session II シンポジウム 14:20-15:50

- 〈シンポジスト〉 和歌山県立桐蔭中高・岸田校長、長崎附属小中担当先生
- 〈コメンテーター〉 白梅学園大学・無藤隆教授
- 〈コーディネーター〉 福井大学教育地域科学部附属小学校・青木先生

「校種を超えた教育を協働する」というテーマについて、それぞれの実践やビジョンを語っていただきます。さらにコメンテーターを通して、参加の皆さんとともに実践の意義について考えていきます。（シンポジスト・コメンテーターの発表時間は約20分を予定）

Session III フォーラム 16:00-17:40

先の2つのsessionを受け、参加者が小グループに分かれ、それぞれの立場や背景を基盤として議論し、共有していきます。それぞれの参加者が、校種を超えたコミュニティや協働について日々、感じていることや悩んでいることについて、本音を交えてじっくりと語れる場にしたいと考えております。

Zone B 教師教育

「21世紀の教師教育をイノベーションする：教職生活全体を通じた教員の資質・能力の育成
－育成指標は教員研修を変えられるのか－」

Zone Bでは、生涯にわたる教師の職能成長を支える教師教育という視点から、“21世紀の教師教育をイノベーションする”をテーマとしています。

昨年12月に中央教育審議会から出された答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」では、これからの時代の教員に求められる力として、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力などが挙げられています。そしてこのキャリアステージに応じた学びや成長を支えていくため、教員の養成・研修を計画・実施する際の基軸となる“育成指標”を教育委員会と教職大学院を含む大学等が協働して作成することや、教育委員会と大学等が相互に議論し、養成や研修の内容を調整するための制度として「教員育成協議会」（仮称）を創設することなどが提言されています。

また、教職大学院は、独立行政法人教員研修センターとも連携し、大学と教育委員会・学校との連携・協働のハブとなり、大学全体の教員養成の抜本的な強化や現職教員の研修への参画を図ること、独立行政法人教員研修センターは、教員の研修の充実のため、これまで以上に積極的に役割を果たしていく必要があることなども述べられています。

そこで、今回のZone Bでは、「教職生活全体を通じた教員の資質・能力の育成 －育成指標は教員研修を変えられるのか－」と題し、学校、教育委員会や教育センター、教員研修センター、教職大学院等が教員の育成ビジョンを共有し、連携・協働しながら、教員育成指標、教員育成協議会（仮称）、教員研修計画等を構築する中で、高度専門職業人として学び合い、高め合う教員を育成・支援するため、それぞれがどのような役割を担い果たしていくべきなのか、参会者の皆様方と共に以下のセッションを進めながら考えていきたいと思っております。

Session 0 オリエンテーション 13:00-13:10

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

Session II シンポジウム 14:20-15:50
(シンポジスト)

文部科学省高等教育局長 常盤 豊 氏
教員研修センター理事長 高岡 信也 氏
横浜市立浦島小学校長 平本 正則 氏、
福井県敦賀市教育長 上野 弘 氏
(コーディネーター)
福井大学教職大学院教授 松木 健一

Session III フォーラム 16:00-17:40

Session I、IIを受け、小グループに分かれて参会者の皆様方と議論を進めます。

Zone C2 コミュニティ

「地域と学校はいかに学び合うのかー大人も子どもも育ち合うコミュニティへー」

これまで Zone C では、各地で取り組まれている長期に渡る実践の歩みとその展開を、地域・世代・領域を超え共有し検討し続けています。そして、ここ数年はコミュニティの発展における「持続性」をめぐる問題に焦点を当て、互いの実践から学び合っています。現在、私たちが地域や職場で出会う課題はある一つのアプローチで解決しえないものへとより複雑化・高度化しています。そのため、地域の発展を支える自治や学習においてもその持続的な展開をどのようにコーディネートしていくかがこれまで以上に問われていると言えます。この問題意識と視点を引き継ぎながら、今回 Zone C は、C1「若者と地域」・C2「地域と学校」という互いに重なり合う2つのテーマを設定いたしました。

人口減少・移動の更なる進行によって、地域社会の存立そのものが危ぶまれるとともに、「地方創生」が重点課題としてクローズ・アップされてきました。そのような中、C1 では、あらためて新しい世代の主体的な実践や地域活動に光をあてながら、その持続的な展開を支えるコーディネートの可能性と課題を考えていきたいと思えます。

また、昨年12月には「学校と地域の連携・協働」にかかわる課題整理と今後の包括的な方向性を提起する中央教育審議会答申が出されましたが、子どもたちの学びや成長を支えることで学校と地域がともに学び合うという実践は、各地で着実に積み重ねられてきています。C2 では、そのような実践の長い歩みや新しい試みを交流し、その価値を互いにじっくりとふりかえりながら、子どもも大人も育ち合うコミュニティのこれからを考えていきたいと思えます。

C1 学び合うコミュニティを培うー若い世代と地域を結ぶー（会場：AOSSA）

C1 は、福井市教育委員会生涯学習室・福井市中央公民館の協力の下、JR 福井駅東口前の AOSSA が会場です。Session I ではフロアをまたぐ空間的な拡がりのなかにポスターを配置し実践交流を行います。Session II では、「持続可能なコミュニティをコーディネートするー若い世代と地域を結ぶー」と題しシンポジウムを行います。若い世代が主体的に活動を進め地域に参画していることの意味を確認しながら、新しい世代の活動をどのように支えていけるのか、また、それをどのようにコーディネートしていけるのかを各地の取り組み事例をもとに考えていきます。Session III では、シンポジウムの問題提起を受け、6人程度の小グループを組み互いの取り組みを交流・共有していくクロスセッションを行います。多くの皆様のご参加・ご来場を心よりお待ちしております。

Session 0 オリエンテーション 13:00-13:10 AOSSA 6階（参加受付ブースあり）

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

Session II シンポジウム 14:20-15:50

〈シンポジスト〉

交渉中

〈コーディネーター〉

吉岡努（福井市教育委員会生涯学習室）、半原芳子（福井大学）

Session III フォーラム 16:00-17:40

C2 地域と学校はいかに学び合うのかー大人も子どもも育ち合うコミュニティへー

（会場：福井大学文京キャンパス）

ここでは地域と学校の関わりについて考えます。たとえば、地域に暮らす大人たちや子どもたちが持つさまざまな要求に対して、学校を担う教職員たちはどのように応じますか。あるいは、教職員たちは地域の子どもの大人に対する責任をどのように果たしますか。このような相互関係をひとまず想定したうえで、学校と地域の関わりをとらえ直そうとしている活動や、地域に暮らす大人たちと子どもたちとの結びつきを編み直す取り組みを共有します。

そして地域と学校が学び合うとはいかなる営みでしょうか。地域と学校に生きるすべての大人も子どもも育ち合う関係性はどのようにつくられるのでしょうか。このような問いにも立ち返りつつ、過去と未来の世代に対する責任を果たす地域と学校のあり様や、子どもと大人が学び合い育ち合う意味について、すべての参加者とともに考えましょう。

Session 0 オリエンテーション 13:00-13:10

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

Session II シンポジウム 14:20-15:50

〈シンポジスト〉

市立札幌大通高等学校（予定）

安居の里を守る会（予定）

〈コーディネーター〉

富永良史（福井大学）

Session III フォーラム 16:00-17:40

Zone D 授業研究

「教師の資本を授業研究によっていかに培うのか：子どもと教師の学びを支えるために」

教師が専門職として生涯にわたって学び続け、成長し続け、新しい時代の授業づくりへの意欲を高め維持していくために、そして、未来を築いていく子どもたちの学びと成長を支えるために、日本独自の学校文化・教師文化である授業研究に大きな期待が寄せられています。しかし、ただ授業研究を実施すれば教師の指導力や授業づくりへの意欲が向上するわけでもなく、また、子どもたちの学力や生活力が向上するわけでもありません。何のために授業研究を実施するのか、いかなる授業研究を実施するのか、どのように授業研究を実施するのか、私たちはこれらの問いを常にもちながら、確かな戦略をもって授業研究を実施することが必要になります。

そこでZone Dでは、「専門職の資本」*という考え方を提案させていただいた上で、「教師の資本を授業研究によっていかに培うのか」というテーマで各Sessionを進めていきます。未来を築いていく子どもたちの学びと成長を支えている実践者や研究者の方々、「専門職の資本」を磨きはじめた若い実践者の方々にご参会いただければと思います。

*「専門職の資本」は人的資本、社会関係資本、意思決定資本の3つからなり、これらは、教師が専門職として生涯にわたって学び続け、成長し続けていくために投資できる（磨いていける）ものです。Zone Dでは、授業研究の力を「専門職の資本」へ投資するという観点から、参会者の皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

Session 0 オリエンテーション 13:00-13:10

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

Session II シンポジウム「子どもと教師の学びを支える福井の授業研究」 14:20-15:50

シンポジスト

福井市至民中学校教諭 竹林 史恵 氏

福井市中学校社会科授業研究会 森上 愛一郎 氏 ・ 松原 義之 氏

福井県教育庁義務教育課主任 船田 次郎 氏

坂井市立丸岡南中学校教諭 牧野 健次郎 氏

小浜市立雲浜小学校教諭 藤野 亮 氏

コメンテーター

東京大学大学院教授 秋田 喜代美 氏

コーディネーター

福井大学教職大学院准教授 木村 優

Session III フォーラム「子どもと教師の学びを支える授業研究の実践」 16:00-17:40

A. 学校における授業研究の多様性から学び合う

A-1 富山市立堀川小学校 福井大学教育地域科学部附属中学校

A-2 信州大学教育学部附属松本中学校 おおい町立名田庄小学校

B. 協働連携による授業研究

福井市中学校教育研究会・英語部会 福井大学美術科の特別支援学校

C. 高校における授業研究の発展

埼玉県立新座高校 福井県立若狭高校